

東京経済大学大学院
経済学研究科 入学試験
(2025年度 1期入試)

課 程	修士課程
入試区分	留学生入試
試験科目	国際経済
出題意図	志願者本人が希望する専修科目に関して、学士レベルでの専門的な知識及び理解力、論理的な思考力を問う問題である。
解答例	<p>特定の解答に誘導し、筆記内容が画一的になると、筆記試験が意図する思考・表現力、創造性等の把握が困難になるため、解答例は公開せず、解答のポイント（採点基準）を公表しております。</p> <p><解答のポイント（採点基準）></p> <p>主に以下の点を評価対象とする。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 出題意図を念頭に置き、設問の内容を把握できていること。(2) 設問に対する解答に必要な、専門分野に関する学士レベルの専門的な知識を修得できていること。(3) 設問内容と上記知識との関係を明確に認識できていること。(4) 設問に対する解答を、上記の認識に基づいて論理的に行えていること。(5) 上記の諸点を無理なく読み取れる解答であること。

※ 公開している入試問題等について、私的利用以外の目的で複製・転載・転用することを一切禁じます。

2025 年度入学試験（1 期）経済学研究科・修士課程
留学生入試 筆記試験問題
【専門科目：国際経済】

2024 年 10 月 5 日（土）実施
東京経済大学大学院経済学研究科

* 解答は別紙の解答用紙に記入すること。

下記の 3 問から 2 問を選び答えなさい。解答する際に、問題番号を明記すること。

- 1 成長会計（growth accounting）による成長率分解式を説明したうえ、経済成長に対する人口ボーナスあるいは人口オーナスの役割を論じなさい。
- 2 1980 年代以来、先進国と途上国における国内所得格差が拡大してきた。グローバリゼーションとの関連で、各国の所得格差拡大をもたらす諸要因を分析しなさい。
- 3 国際ロボット連盟（International Federation of Robotics）によると、2022 年に中国が導入したロボットは約 29 万ユニットで、2 位日本の 5 万ユニットの約 6 倍に達している。ルイス転換点理論や産業高度化理論を応用し、中国におけるロボット大規模導入の背景を説明しなさい。